令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立中央幼稚園）

分　　野	評価項目	評価の着眼点	自　己　評　価 達成及び取組状況	評価（点数式）	学校関係者評価 評　価（記述式）	評価結果を踏まえた今後の取り組み
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	・年齢に応じて教育目標に基づいた学級経営案、指導計画を立案し、保育実践に努めた。幼児が伸び伸びと体を動かして遊んだり、主体的に遊びに取り組むような環境構成の工夫をしたり、幼児が興味関心を持ったことや体験したことが遊びにつながるような保育を進めた。また、毎月、毎学期ごとに計画や実践からの成果と課題を捉え、次への保育につなげていくようにした。しかし、分析と評価について十分に時間をとって行うことができなかった。	3	・コロナ禍でも美術館をされた。親子作品があり、保護者が園で子どもと一緒に作品を作ることは、忙しい中での親子の触れ合いとなり良いことだと思った。また、これまで作っておいた作品を先生方が工夫して展示し、壮大な美術館となっていた。 ・美術館の絵も豊かで、特別支援教育、人権教育の成果が表れていると思う。子ども達が生き生きと活動する姿が思い浮かんだ。栽培した豆のつるを活用して作品を作るなど一つ一つの行事が単独ではなくつながりをもっていることがわかる。 ・発表会、美術館を見せてもらったが、それらはつながり、テーマをもって取り組まれていることがわかった。特別支援教育の拠点園として、様々な特性や国籍の子ども達がいるが、発表会では支え合ったり認め合ったりして一体感のある発表であった。 ・来年度はコロナ対応が変わっていくと思われるが、中止していた行事はそのまま復活させるかどうか、行事を見直して良かったことはそれを続けても良いと思う。 ・特別支援を要する子どもの就学について、結果的には通常学級を選ばれたが、時間をかけて保護者に学級見学をしてもらったり話し合ったりされたことで、保護者が学ばれたと思う。 ・コロナで地域とのつながりが持てなかったことは仕方のないことだと思う。今後できる範囲で行ってほしい。	・定期的にチーフ会を行い、構えず、小さなエピソードから話し合うことで継続することを目標にして取り組んでいく。 ・保護者に対してのクラスだよりを定期的に発行し、我が子の園生活の様子に興味を持ったり、幼児教育に関心を持ったりしてもらえるようにし、家庭でも話題にしてもらいながら共に子どもを育てていけるよう工夫する。 ・保育の実践記録や個人記録を継続し、幼児理解に努める。学級内のカンファレンスの時間を計画的に組み入れ、支援方法等について共通理解して対応する。また、必要なことは全職員で共有する。 ・特別支援教育については、えがおの会（特別支援対象者）やその保護者会の内容を検討し、育ちや支援に反映させていく。 ・また、一人一人の幼児の良さを認め合い、良さが生かされる集団作りや共に育ち合う保育について工夫する。そして、行事への参加の仕方等については、子ども達同士の自然な関わりが生かせるようにしていく。 ・人権・同和教育について、職員それぞれが、多様化する価値観や社会に対応できるよう、相手を認め尊重する柔軟な心を持ち、人権意識を高めていけるよう、研修を重ねていく。 ・行事の在り方については、子どもの実態を踏まえ、コロナの状況等を考慮したうえで、ふさわしいやり方を決定し、計画的に取り組むことで子ども達の達成感や充実感につなげていくようにする。 ・校区内の小学校、幼稚園と情報共有しながら、互恵性のある交流の在り方について探り、実践する。また、アプローチカリキュラムの見直しを図り、スムーズな就学につなげていく。 ・特別な支援を要する子どもについて、就学を見据えて早めから保護者の学校見学等を行い、ゆっくり考えて進めていけるようにする。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	・日々の生活の中で、幼児の姿から個々の背景を考慮しながら内面を汲み取り、受容的態度を心がけることで、幼児が安心して自己表出できるように努めた。学級の職員カンファレンスでは、保育を進めていく中での幼児の育ちと課題を多面的に捉え、支援の方法を共有するようにし、子どもの成長を支えることができた。 ・保護者には、学期ごとの成長の記録「あゆみ」や、個人懇談を通して情報共有し、共に成長を喜ぶことができた。	4		
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	・特別支援教育拠点園として、９名の幼児が在籍しており、専門機関（療育、市指導員、心理士）や保護者と支援会議を通して連携を図り、幼児の発達を支えた。 ・担任や特別支援教育補助教諭が個別の指導計画を作成し、学級での支援の方法について共有し、学級の幼児が共に育ちあえるような学級経営を行った。そうすることで、特別な支援を要する子どもも、学級で安心して楽しく過ごすことができた。 ・保護者に向けては、就学を見据えた学校見学や、保護者同士の座談会などを行い、先を見通して行動できるよう支援した。就学先について、保護者が我が子にふさわしい場所を選べるよう支えることができた。	4		
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	・まず、幼児のありのままの姿を受け止め、認めることで幼児の良さを引き出したり自己を発揮できるようにし、自尊感情を高めていけるよう努めた。また、集団の中で互いの良さや違いを認め合える学級づくりに努めると共に、個に応じた基本的生活習慣の形成に向けて家庭との連携を大切にした。 ・職員は、人権同和教育研修に積極的に参加したり職員間で話し合い、自分自身の人権感覚を磨くよう努めた。しかし、多様性の理解について等、もう少し職員研修を行う必要がある。	3		
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	・行事は単発的なイベントではなく、保育の流れから無理なく取り組めるよう、幼児の興味関心を大切にした題材を取り入れるようにした。行事に向かっていく中で、幼児が主体的に取り組み、意欲的に進めていけるよう話し合いや振り返りを大切にしたり、活動を通して経験を広げたり喜びや自信につながるよう工夫した。 ・コロナ禍でも、すべてを中止にするのではなく、感染対策に留意しながら、幼児の育ちを保障できるよう工夫して行った。そして、保護者にも行事を通して子どもの成長の姿を見てもらうことができ、良かった。	4		
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	・就学予定先9校との連絡会への参加や情報提供を行い、連携を密にした。 ・保幼小交流の日や今市小学校区の交流活動に参加したり、学校見学をしたりし、年長児が小学校に期待と憧れの気持ちが高まるきっかけとなった。しかし、コロナ禍において、十分に活動できなかった。 ・今市小学校区の校長園長会では、授業見学や近隣の保幼小との情報交換ができ、就学に向けて重視することなどを確認することができた。	3		
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	・保護者会活動は、その時期の新型コロナウィルス感染症の状況により、中止せざるを得ないこともあったが、できることを工夫して行った。（運動会補助、焼き芋会、清掃活動など）ほとんどが核家族となってきているため、PTA活動への負担感が軽減できるよう活動の在り方を工夫した。 ・地域の方との交流はコロナ禍であり、難しかった。 ・園内の子育て支援センターでは、未就園児親子の交流の場としての役割を果たすことができた。	3	・今後PTAの参加も増えていくのではないか。行事の参加の在り方に工夫をしてほしい。 ・運動会では保護者も生き生きしていた。親もそうした機会を待っていると思う。	・コロナの状況を考慮しながら、地域の人との交流を再開し、様々な人との関わりによって豊かな心育てができるようにする。また、地域の自然や文化に触れる活動を保育計画に組み入れ、子ども達が地域の良さを体感していけるようにする。 ・日頃忙しい保護者が園の活動に負担感なく参加できるように工夫したり、幼児教育の大切さについて理解してもらえるよう発信の方法を工夫したりする。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	・「自ら思いや考えを表しながら、夢中になって遊ぶ幼児の育成」をテーマに、幼児の遊びの過程を支える援助を大切に保育を行った。各学年ごとに園内保育研究会（5回）を行い、幼児の姿から経験や学び、今後期待される育ちなどを読み取り話し合うことで、保育の資質向上に努めた。 また、園外の研修にも積極的に参加し、職員会議で伝達したり、復命書を回覧することで全職員が共有するようにした。しかし、研修を受けたことを十分に生かせたかということについて課題が残った。	3	・研究について、小学校も若い教員がいるが、学校内でもベテランの教員の授業を見て学んでいる。忙しい中でも他園に出かけて勉強することは大切である。	・園内研修を計画的に行い、園全体としての保育の充実を図るよう努める。また、事例の検証やカンファレンスを参加しやすい形で続けていく。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	・園務分掌を基に前月初めの職員会議で起案し、早めの計画実行に心がけた。チーフ職員を中心に係分担し、協力して進めていった。実行後は成果と課題をまとめ、職員会議で共有して来年度に向けての改善点等を記録に残すようにした。 ・新型コロナウィルス感染症に関する職員の休暇が多かったが、日々の人的配置を工夫し、全職員が協力し合って保育業務を遂行するようにした。しかし、保育以外の業務については、時間外勤務になってしまうこともあった。	3	・園務について、コロナ禍で職員の休暇が多かったと思う。そうした時には互いに補わなければならないが、協力体制がうまくいっていたのだと思う。ただ、忙しい中であるので、業務の見直しを行い、職員間で仲間を助けようという心の余裕が持てるようにしてほしい。	・引き続き、計画的な執行に努める。事務処理において可能な限り簡素化したり、さらに分担したりする工夫を行う。 ・「働き方」を考慮し、欠員補充の業務には互いに協力し合う関係づくりに努める。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	・新型コロナウィルス感染症について、基本的な感染症対策を徹底した。（施設・遊具等の消毒、換気、職員園児の健康チェック、日中の検温など）園児に感染者が出た時には、保健所・保育幼稚園課と協議の上適切な措置をとり、可能な限りの感染拡大防止ができたと思う。 ・災害発生時に備え、危機管理マニュアルを基に毎月避難訓練を実施し対応や役割を確認した。また、他県での事故事例から幼児の安全を徹底するために施設や保育中の管理の見直しや確認を行い、ヒヤリハット事例を全職員で共有し、事故を防ぐようにした。	4	・担任が感じるヒヤリハットを管理職にきちんと上げるようにし、職員間で風通しをよくする工夫をしていくことが大事だと思う。 ・保護者への連絡は小さなことでもきちんとしておくことが大事である。	・引き続き基本的な感染対策を行い、園児が安心安全に生活できるようにする。 ・小さなヒヤリハットを共有し、環境を整備したり、声を掛け合い危険防止に努める。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	・安全点検項目に基づき、園舎内外や遊具の日常的な点検を行い、必要に応じて市の担当課と連携し、環境整備や修繕に努めた。また、大きな修繕については計画的に行えるよう予算要求をしたが、市の予算の関係で保留となっているものもある。 ・日ごろ子ども達が遊んでいる公園の遊具の点検も行い、修繕個所について市へ届けているが、安全の基準の考えにズレがあるためか、すぐに対応してもらえないものもある。	3	・公園の遊具についても点検されているようだが、遊具のネジカバーが破損し、ガムテープで補修してある点が気になる。繰り返し要望されると良い。 ・老朽化によりすのこの板も傷んでおり、子どもがケガをするのではないか心配である。	・園舎の老朽化が進んでいるため、幼児が事故に巻き込まれないよう、丁寧に点検し、修繕を要する場所があれば、処置したり、市へ報告し、早急な対応を要望する。

※自己評価の評価基準　４：十分達成している　３：概ね達成している　２：改善を要する部分がある　１：大いに改善を要する